

器種不明の形象埴輪9) (第314図)

No.	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特徴	備考
2000	不明	残破片 高<7.6	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	2001と同一個体をなすと考えられる。表面ともハケメ後へラ描きによる区画が施される。	天地不明。
2001	不明	残破片 高<13.1	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	板状の破片である。表面ともナナメタテ方向のハケメ後、線刻による木の葉文が構成されている。	天地不明。
2002	不明	残破片 高<10.6	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・ 普通	板状破片で斜行する縁辺の一部が残存する。裏面には粘土を貼り足し肥厚させている。両面ともタテ方向のハケメを施した上にへラ描きによる線杉文を配している。	PL149
2003	不明	残破片 高<7.2	①後門部西 側②2ト 2E-13G 周圏内	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	板状の部分である。タテ方向のハケメ後、表面両面に線杉文状の意匠が線刻されている。	PL149
2004	不明	残破片 高<6.4	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	内側に緩やかに彎曲する破片である。内面はハケメをナゲ消し赤色塗彩を重ねている。	
2005	不明	残破片 高<7.6	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	板状の破片である。裏面に大きな刺離痕がみられる。	
2006	不明	残破片 高<7.9	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①B②ふい橙 5YR4/6③普 通・普通	一端の器内が肥厚し、器面は内側に弧をなすと思われるが全容は不明である。一部にハケメを残し、粗雑にナゲている。	天地不明。
2007	不明	残破片 高<7.0	①後門部墳 頂部～上段 ②後門C- II	①A②橙7.5YR 6/6～ふい橙7.5 YR6/4③普通・ 普通	小径の筒状を呈する。	外面は磨滅している。
2008	不明	残破片 長<6.2	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	棒状で先端にいくに従い径を細め、尖る。本体からの刺離痕がみられる。粗雑なナゲが施される。	
2009	不明	残破片 高<4.3	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①B②橙2.5YR 6/6③普通・普通	板状の小破片、短々によりやや肥厚をちがえる。表面に刺離が施されるか。	天地不明。
2010	不明	残破片 高<6.2	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	帯状を呈していたか。裏面は本体からの刺離痕である。内側に緩やかに彎曲する。径3.5cm程度の刺離痕があり、その周縁には付属品装着時ナゲがみられる。	胎土分析試料。
2011	不明	残破片 高<4.5	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①A②明赤褐 2.5YR5/6③普 通・普通	薄い粘土板からなる。ハケメ後線刻を施す。裏面には刺離痕がみられる。	天地不明。
2012	不明	残破片 高<11.5	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①B②明赤褐 5YR5/6③普通・ 普通	1987と同様。	PL149
2013	不明	残破片 高<4.7	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	ヨコ方向に緩やかに彎曲する破片である。タテ方向のハケメの上にナナメ方向に規則性をもたない13本の線刻がみられる。	天地不明。 黒色の付着物あり。
2014	不明	残破片 幅4.6 高<5.2	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①A②赤褐2.5 YR4/6③普通・ 普通	板状の小片である。小口の一端はU字状に縁り込まれている。各面ともナゲられているがへラ切りの痕跡がみられる小口面が本体と接続していたか。	PL149
2015	不明	残破片 高<4.3	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①B②橙2.5YR 6/6③普通・普通	尖帯のめぐる小破片である。	

器種不明の形象埴輪⑩ (第315図)

No	器種	量目	出土位置	① 粘土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
2016	不明	残 破片 高 < 11.0	①後門部墳 頂部～上段 ②輪部WIV	① B ②明褐7.5 YR5/6③良好・ 普通	板状の破片である。一部にみられる周縁部は一部が縞り込まれたようになっていたが、外面はハケメをナゲ消した後、平行するへら描きを施し、一部の区画内に赤色塗彩を施す。周縁部端面にも赤色塗彩を施す。	天地不明。
2017	不明	残 破片 高 < 6.2	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部	① B ②橙7.5YR 6/8③普通・普通	釣針状を呈する。本体に付属していたもので上端は刺摩痕を残している。	天地不明。 PL149
2018	不明	残 破片 高 < 9.3	①後門部西 側②C-2 -V-2	① B ②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	大型品の一部と思われる。外面に刺摩痕とそれを接合した時につけられたナゲがL字状に認められる。	
2019	不明	残 破片 長 < 6.2	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部	① B ②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	人物の手を接合するように棒状粘土を本体の中空部分が包み込んでいる。本体の一部は粘土を貼り足し肥厚させ、へら描き沈線を描きとところみられる。	PL149
2020	不明	残 破片 高 < 7.5	①A ②橙7.5YR 側②C-2 -IV-2	① A ②橙7.5YR 6/8③普通・普通	木の基状をした板状粘土で、一端は欠損する。中央部分はやや肥厚し、そこから縦状のへら描きを施す。	PL149
2021	不明	残 破片 高 < 6.9	①後門部西 側②WC II	① A ②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	板状を呈する破片、内外面にハケメを施す。切り込みの一部が残存する。	
2022	不明 (紐)	残 破片 長 < 3.3	①後門部西 側②B-I -1-2	① A ②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	人物などに付属する紐か。	
2023	不明	残 破片 長 < 4.5	①後門部西 側②VI	① A ②橙7.5YR 6/6③普通・普通	径10mmの粘土紐、両端は欠損している。付属品である。	
2024	不明	残 破片 長 < 4.8	①後門部西 側②B-1 No.51	① A ②明赤褐 2.5 YR5/6③普 通・普通	粘土紐を曲げ、環状に成形していたと考えられる。下端に比べて上端の径が狭まっている。人物の耳環か。	外面に黒色の 付着物あり。
2025	不明	残 破片 高 < 5.3	①出土地不 明②A、山、 No.3	① A ②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	厚さ8・9mm、木の葉状の粘土である。本体から剥離している。へら描き沈線により葉状の意匠を描き、区画内を一段おきに赤色塗彩を施す。	PL149 後門部西側 出土。
2026	不明	残 破片 高 < 8.6	①後門部南 側(後方)② 10トレ3区 上～中段	① A ②橙2.5YR 6/6③普通・普通	緩やかに外反する破片である。外面はタテ方向を基本とするハケメ、内面はナナメ方向のナゲを施す。	
2027	不明	残 破片 高 < 4.2	①後門部西 側②C-2 -1-2	① A ②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	厚さ8～9mmの粘土板を丸く輪にしている。径50mmを復元できる。内面は刺摩痕が認められ、本体に付属していた部分と考えられる。	
2028	不明	残 破片 高 < 4.4	①くびれ部 西側②16ト レ5区	① B ②橙5YR 7/8③普通・普通	薄い板状の粘土で反り返っている。人物の下げ大豆良に付く飾りの可能性が考えられる。	
2029	不明	残 破片 高 < 5.4	①後門部西 側②C-2 -VI	① A ②橙7.5YR 6/6③普通・普通	幅35mm、厚さ7mmの粘土紐2枚を斜格子に重ねている。上面にはへらにより格子模様を配されている。表面は本体から剥離した状態がみられる。靱負の頭部被物の付属品か。	
2030	不明	残 破片 高 < 2.6	①くびれ部 西側②16ト レ5区	① A ②橙7.5YR 7/6③普通・普通	薄い板状の粘土で、途中で欠損している。2028と同様の形状を呈していたか。	
2031	不明	残小破片 高 < 4.0	①後門部西 側②C-2 -1-2	① A ②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	人物の胴部の破片か。へら描きのココ線に刺突を列状に重ねている。	
2032	不明	残 破片 高 < 6.8	①後門部西 側②C-2 -V-2	① A ②橙7.5YR 6/6③普通・普通	本体に付属する舌状の粘土板である。欠損端部はL字状に屈折したか。断面はナゲている。幅32mmを測る。	
2033	不明	残 破片 高 < 4.2	①後門部西 側②C-2 -VI	① A ②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	本体に付属する幅40mm、厚さ6mmの薄い板状粘土の破片である。	
2034	不明	残 破片 長 < 6.4	①後門部西 側②C-2 IV-2	① A ②橙7.5YR 6/8③普通・普通	帯状の粘土板の破片である。幅30mm、厚さ6mm、本体から剥離した付属品である。	外面磨滅。

No	器 種	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
2035	不明	残 破片 径 (16.3) 高 (10.6)	①後内面南 側(後方)② 10ト7区 周壁内	① A ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	円筒形の本体に、下縁3.5cmの帯状の突起がめぐる。胴部外面にはハケメが施される。	
2036	不明	残 破片 長 < 5.6)	①後内面西 側②WC II	① A ② 橙5 YR 6/8③普通・やや 軟質	棒状の粘土、端部に向けてやや径を増やす。一端は欠損する。	
2037	不明	残 破片 高 < 8.0)	①後内面西 側②C-2 IV-2 No.20 C-2-3 IV、C-2 IV-2	① B ② 橙5 YR 6/6③普通・普通	袋状を呈する。外面にはハケメを施した後へう描き文線による渦巻文が両面に配される。上面にも渦巻文がみられる。	PL149

器種不明の形象埴輪Ⅱ (第316図)

No	器 種	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
2038	不明	残 破片 高 < 11.2)	①くびれ部 西側② 拭 1、1号埴 輪	① B ② 明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	形象の基部である。外面タテハケ後断面三角形の突起を貼り付ける。内面はナデている。	
2039	不明	残 破片 高 < 9.7)	①後内面城 頂部～上段 ②B T-VI	① B ② 明赤褐2.5 YR5/6③普通・ 普通	板状を呈する破片である。外面はハケメ調整後へう描きによる弧状の文線とこれに接する2重文線の副曲文が認められる。一部に刺刺の痕跡がみられる。	天地不明。
2040	不明 (人物?)	残 破片 高 < 7.6)	①くびれ部 西側②C- 5-VI	① B ② 赤褐5YR 4/6③普通・普通	本体に幅1.3cm程の粘土帯が3本貼られている。	
2041	不明	残 破片 高 < 9.6)	①くびれ部 西側②C- 5	① B ② 明赤褐5 YR5/8(赤)、明 褐7.5YR5/8(赤) ③普通・やや軟 質	先端は器肉を薄くして尖る。外面タテハケ、内面はココハケ、ナナメハケを施す。	
2042	不明	残 破片 高 < 6.8)	①くびれ部 西側②C- 5-VI	① B ② 明赤褐5 YR5/6(赤)、褐 10 YR 4/4(黄) ③普通・普通	本体に貼り付け厚さ9mm程の粘土板で、内灣している。外面はハケメ後、へう描き文線により区分が施されているよう一部に赤色塗彩が施されている。	
2043	不明	残 破片 高 < 7.3)	①くびれ部 西側②C- 5	① B ② 明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	外面タテハケ後へう描きによる斜行線文を施す。	黒色の付着物あり。
2044	不明	残 破片 高 < 4.3)	①前方部西 側②南方W T	① B ② 明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	厚さ8mmの粘土板が彎曲する本体に貼り付いていたと考えられ、その隙間に粘土を補填している。	天地不明。
2045	不明	残 破片 高 < 3.9)	①くびれ部 西側② 拭 1、2号埴 輪	① A ② 褐7.5YR 4/6③普通・普通	薄い板状粘土である。本体から剝離したもので、本体の形状にそくして端部が内灣している。	
2046	不明	残 破片 高 < 11.3)	①くびれ部 西側②WC 4III	① B ② 橙7.5YR 6/6③普通・普通	本体は大型品が想定され横断面は大径の円あるいは矩形を呈すると思われる。外面には水平方向に幅5cmの板状粘土が張り出し、その下面には粘土塊を貼り増強している。調整は接合部分をナデている他はハケメを施す。内面に1箇所径8mmの穿孔が途中まで刺突されている。	PL149
2047	不明	残 破片 高 < 4.9)	①くびれ部 西側②C -4 II	① A ② 橙7.5YR 6/6③良好・普通	本体に付属する帯状の粘土帯で一端は本体の形状に沿って外反、欠損する。幅45mm、厚さ11mmを測る。	
2048	不明	残 破片 高 < 11.9)	①くびれ部 西側②C- 4 IV a、C -2 IV	① B ② 橙7.5YR 6/6③普通・普通	板状粘土を巻き、角状の形状をつくっている。表面はハケメを施し、赤色塗彩する。裏面はナデを施す。	PL149

No.	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特徴	備考
2049	不明	残破片 長<5.4)	①鞍部墳頂部 ②鞍部	①A②橙7.5YR 6/8③普通・普通	長径2.8cm、短径2.0cmの断面楕円形の棒状粘土、両端は欠損する。人物に付属するか。	
2050	不明	残破片 長<5.1)	①くびれ部 西側②WC -IV	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	径29~35mmの棒状粘土で、端部に向けてやや太くなる。一端は欠損で、本体から剥離している。	
2051	不明	残破片 径(2.5) 長<13.6)	①くびれ部 西側②C- 5	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	棒状の粘土であるが一端は尖る。もう一方は欠損するが端部はつぶれ扁平である。一部に赤色塗彩が施される。美豆貝あるいは垂髪か。	PL149
2052	不明	残破片 高<10.9)	①鞍部墳頂部 ②鞍部	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	大径の本体から水平方向に器内の厚い板状粘土が突出する。外面ヨコナゲを施す。	PL149

器種不明の形象埴輪② (第317図)

No.	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特徴	備考
2053	不明 (基台部)	残基台部 底16.5 高<61.2)	①くびれ部 西側②拡 1、2号埴 輪	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	本文中参照。	PL150
2054	不明	残破片 高<6.5)	①くびれ部 西側②拡1	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	2枚の粘土板を合わせ筒状に成形している。中空であったか、外面の一面にはへら掻きによる沈線か平行して刻まれている。	
2055	不明	残破片 高<11.6)	①くびれ部 西側②鞍部 W	①A②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	棒状の粘土、両端の径はやや異なる。人物等の付属品か。	器面の磨減 著しい。 PL150
2056	不明	残破片 高<7.4)	①くびれ部 西側②鞍部 VI	①B②明赤褐5 YR5/8③普通・ 普通	幅4.4cm、厚さ1.5cmの粘土帯、一端は丸みをもつ。付属品か。	器面の磨減 著しい。
2057	不明	残破片 高<5.1)	①くびれ部 西側②拡1 中段	①B②橙5YR 6/6③普通・普通	外面タテハケ後へら掻き沈線により木の葉様の文様が刻まれている。	
2058	不明	残破片 高<7.8)	①くびれ部 西側②WC V・VI	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	端部は山形に切り込みが入られている。外面、ハケメを一部ナデている。内面には粗雑なハケメを残す。	PL150
2059	不明	残破片 高<16.0)	①くびれ部 西側②拡1 後門上段1 -3	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	長円形の断面を有する。全体に小径であるが、除々にその径を変化させている。外面はハケメを充填する。内面には粘土紐の接合痕を明瞭に残す。	PL150
2060	不明	残破片 高<6.3)	①くびれ部 西側②鞍部 W-II	①A②赤褐5YR 4/6③普通・普通	径2.2cmの棒状の粘土である。両端は剥離痕が認められる。整形は不十分で指頭による押圧を残す。内面の補強に使用されていたか。	
2061	不明	残破片 長<4.2)	①くびれ部 西側②鞍部 WC T-VI	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	扁平な粘土紐、先細りして丸く収束する。器面にはナデが施される。人物の付属品、手の先あるいは獣先の可能性があるか。	
2062	不明	残破片 高<4.5)	①鞍部墳頂部 ②鞍部 WC T-VI	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	本体端部外面に粘土帯を貼り肥厚させる。外面にはへら掻き沈線により刷毛文を区画し、内部に平行沈線を充填する。	天地不明。 PL150
2063	不明	残破片 高<9.9)	①くびれ部 西側②拡 1、2号埴 輪中段	①B②赤褐5YR 4/6③普通・普通	外面タテハケ後へら掻き沈線による文様を配している。内面はナメハケを施す。	外面に黒色 の付着物あり。 PL150

器種不明の形象埴輪⑬ (第318図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	備 考
2064	不明	残 破片 高 く 3.1.)	①くびれ部 西側②WC -V	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	刺突文を伴うへら掻き沈線を区画線におき、内部を平行沈線により細分していると思われる。	天地不明。
2065	不明	残 破片 高 く 3.5.)	①くびれ部 西側②WC IV	①A②橙5YR 6/6③普通・普通	外面タテハケの上にナメ方向のへら掻きを交差させている。裏面はナデを施す。	天地不明。
2066	不明	残 破片 高 く 6.7.)	①くびれ部 西側②輪部 W	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	板状品の破片、外縁が弧状をなす。	
2067	不明	残 破片 高 く 4.9.)	①くびれ部 西側②C- 5-VI	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	本体に横位に貼り付いた板状粘土と考えられる。表面には、へら掻き沈線により、上方から2重、下方から1重の対向する円弧が配されている。	
2068	不明	残 破片 長 く 3.6.)	①くびれ部 西側②C- 4IVa	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	直径11~12mmの粘土紐である。両端は欠損するが輪になっていたか。大物に付属する着衣の紐などの可能性がある。	黒色の付着物あり。
2069	不明	残 破片 高 く 2.1.)	①くびれ部 西側②C- 4・5	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	ナメ下方に外反する。帽子の髷あるいは人物の着衣の裾部か。上面に2本1単位の平行するへら掻き沈線により断面が構成されていると思われる。	PL150
2070	不明	残小破片 高 く 2.8.)	①くびれ部 西側②WC -V	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	へら掻きの沈線による文様が配されると考えられる。	
2071	不明	残 破片 幅 く 3.4.)	①くびれ部 西側②WC V	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	本体から剝離した板状粘土の破片である。側縁のやや内側にこれに沿って刺突文を伴うへら掻き沈線が画され、その外側に径16mmの円形貼付文が1つ残る。	天地不明。
2072	不明	残小破片 高 く 4.4.)	①前方部西 側②WC T VI	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	板状の破片で内部に平行する2本のへら掻き沈線を配し外側の沈線には刺突文を重ねている。また径18mmの円板を貼り付け。	
2073	不明	残 破片 高 く 5.5.)	①前方部西 側③前方V VI	①A②明赤褐5 YR5/6③良好・ 普通	本体に付属する薄い板状粘土である。側縁に沿って刺突文を伴うへら掻き沈線を沿わせ、その区画内に径17mmの円形浮文を貼り付けている。	
2074	不明	残 破片 高 く 9.6.)	①くびれ部 西側②輪部 WCT V	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	厚さ8mmと薄い板状の付着品、裏面には本体からの剝離痕が認められる。全体形状は不明である。表面にはへら掻きの沈線を2重に施し、外側の区画には刺突文を重ねている。側縁近くには径2.0cmの円形の粘土板を貼付する。	天地不明。 PL150
2075	不明	残 破片 長 く 4.4.)	①くびれ部 西側②C- 5	①A②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	やや彎曲する棒状粘土の破片である。	
2076	不明	残 破片 高 く 6.0.)	①くびれ部 西側②IV	①B②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	形象の基台部か。近接して断面M字状の突帯2条が配される。	内面に2条のへら記号。
2077	不明	残 破片 高 く 5.5.)	①くびれ部 西側②C- 4	①A②明褐7.5 YR5/6③普通・ 普通	形象の基台部か。口縁部の端面外面に断面M字状の突帯を2条配する。先端は丸みをもって収束する。	天地不明。 PL149
2078	不明	残 破片 高 く 6.9.)	①くびれ部 西側②WC A III B	①B②橙7.5YR 6/6③普通・普通	形象の基台部か。外面タテハケ後断面台2状の突帯を2条貼り付けをする。内面は丁寧なヨコナデ。	PL149
2079	不明	残 口縁部 破片 高 く 14.0.)	①くびれ部 西側②16ト レ4区	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	あまり外反せず除々にその径を大きくしているか。口縁部の先端外面は断面台形状に配列、その直下、7.3cmの間隔をあけて2条の突帯がめぐる。外面はタテハケ、内面はナデが施される。	内面に2条のへら掻きのみがみられる。形象の基台部か？ PL149
2080	不明	残 口縁部 破片 高 く 7.8.)	①くびれ部 西側②1 1	①B②橙5YR 6/8③普通・普通	形象の基台部か。外面は先端とその直下に2条の突帯をめぐらせている。器面はナデが施されている。	PL149
2081	不明	残 口縁部 破片 高 く 6.1.)	①くびれ部 西側②16ト レ4区	①B②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	外面の先端は突帯状に粘土紐を貼り付け、端面を幅広く形成する。また、この直下に断面M字状の突帯がめぐる。外面にはタテハケ、内面にはヨコハケ、ナデがみられる。	形象の基台部か？

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
2082	不明	残 口縁部 破片 高 < 5.7)	①北西隅西 側②缸5	① B ② 橙 5 YR 6/8③普通・普通	緩やかに外反して立ち上がる先端は外面に2条突帯がめぐ る。	

器種不明の形象埴輪④ (第319図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	備考
2083	不明	残 破片 高 < 8.8)	①前方部西 側②WC VI	① B ② 橙 5 YR 6/6③普通・普通	板状の破片である。外面にはタテハケ後一辺3.0cm前後の四方 形に分割、内部にタテ・ヨコ方向に交互にヘラ描きし、網代 様の文様を描いている。	PL150
2084	不明	残 破片 高 < 6.8)	①前方部西 側②WC VI	①A②明赤7.5YR 5/6③普通・普通	本体から筒状の部分が突出する。外面タテハケ、内面ナデ、 ヘラナデを施す。	
2085	不明 (前持ち人の の耳?)	残 破片 高 < 3.6)	①前方部西 側②4トレ X-14・15 G周縁内?	①A②明赤6.2.5 YR5/6③普通・ 普通	縁部をナデている。	
2086	不明	残 破片 高 < 12.2)	②前方部W V、WC VI	① B ② 明赤6.5 YR5/8③普通・ 普通	板状の破片である。外面にヘラ描きによる格子状文を配 し区画内に縦横の平行線を充填する。	PL150
2087	不明	残 破片 高 < 8.9)	①前方部西 側②WC T -VI	① A ② 明赤7.5 YR5/6③良好・ 普通	外面タテハケ後狭小な断面M1タイプの突帯を貼り付ける。 ヘラ描きにより横行しガガ状に曲がる沈線がみられる。	
2088	不明	残 破片 高 < 5.1)	①外縁④4 トレX-14 G周縁内	①A②橙2.5YR 8/6③普通・普通	格子状板飾りの一部か。本体に貼り付く前にやや幅を有する 粘土板である。上面にはハケメ、側面にはナデを施す。	
2089	不明	残 破片 高 < 8.6)	①前方部西 側③3トレ V-16G中 段	① B ② 明赤6.5 YR5/6③普通・ 普通	円筒形部分の破片である。基台部あるいは人物の胴部破片か。 外面はハケメ、内面はナデを施す。	
2090	不明	残 破片 幅 < 3.2)	①前方部西 側④4トレ X-15G下 段	① A ② 明赤6 2.5 YR5/6③ 普 通・普通	外面は弧状をなし、ハケメが施されている。付属品と思われ る。	
2091	不明	残 破片 長 < 3.0)	①前方部西 側②WC T IV	①A②橙7.5YR 6/6③普通・普通	鉢状の粘土塊であるが縁口の変形はみられない。器面はナデ を施す。	
2092	不明	残 破片 高 < 16.4)	①出土地不 明	① B ② 明赤6.5 YR5/6③良好・ 良好	扇形の破片か。円筒状の本体から板状粘土がヨコ方向に翼状 に張り出しているものと思われる。翼状部分は縁辺から3.5cm 程がわずかに肥厚している。表面は刺突文を伴う粟粒線によ り3つの文様帯に区分されている。周縁部寄りには刺突文を伴 う沈線により刺突文が配され内区には平行線が充填されてい る。次の文様帯は長方形に細分され内区には交互に方向を がえた平行する沈線で満たされている。その内側の区画は刺 突文と格子状文の組みあわせのようである。	PL150
2093	不明	残 破片 高 < 12.8)	①前方部西 側②前方W -III	① B ② 明赤6.5 YR5/6③普通・ 普通	器内の厚い、やや彎曲する破片である。外面タテハケ後、突 帯を貼り付けている。器面の一部にヘラ描きの沈線を施し、 それを消すように周辺をナデている。	
2094	不明	残 破片 長 < 5.1)	①前方部西 側③3トレ V-15G下 段	① A ② 橙 5 YR 6/6③普通・普通	細い粘土帯で先端が尖る。本体に沿って彎曲している。	
2095	不明	残 破片 高 < 3.6)	①前方部西 側④4トレ X-15G下 段	① A ② 橙 2.5 YR6/6③普通・ 普通	外面はタテハケ後、残存下帯をココナデ、その上を2本1単 位の鋸歯状工具で刺突している。内面はナメ方向のハケメ を施す。径約4.0cmの穿孔がみられる。	

No	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特 徴	備 考
2096	不明	残 破片 高 < 6.8)	①前方部西 側②前方W	① B ②明赤褐5 YR5/6(表)、褐 7.5YR4/4(裏) ③良好・普通	やや彎曲する破片、外面にリング状の付属品か。剥離した痕跡がみられる。	
2097	不明	残 破片 高 < 4.5)	①前方部西 側②WC T —V	① A ②橙7.5 YR6/6③普通・ 普通	板状の破片である。径22mmの穿孔を穿ち、周縁に粘土を貼り継取りをするか。また、外面には粘土の剥離痕が認められる。	天地不明。
2098	不明	残 破片 高 < 8.8)	①前方部西 側③トレ V—16G	① B ②橙5 YR 6/8③普通・普通	円筒状の本体を幅1.6cmの粘土帯が取り巻いている。断面はナゲられている。	
2099	不明	残 破片 高 < 5.3)	①前方部西 側②前方W	① A ②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	外面はナゲ調整の上にヘラ描きによる弧状の沈線3本がみられる。	

器種不明の形象土輪(第320図)

No	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特 徴	備 考
2100	不明	残 破片 長 < 11.0)	①出土地不明	① B ②明赤褐5 YR5/6③普通・ 普通	小径の筒状を呈する破片である。外面にはハケメ後、一定方向にヘラ描き沈線を平行して施す。一部に剥離痕が認められる。	天地不明。 PL150
2101	不明	残 破片 高 < 14.0)	①出土地不明	① B ②橙7.5 YR 6/8③普通・普通	本体に帯状の粘土板を貼り付けている。	天地不明。 PL150
2102	不明	残 破片 高 < 5.6)	①出土地不 詳②前方部	① B ②橙5 YR 6/8③普通・普通	厚さ13mm、幅38mmの板状の粘土である。一端は割れている。本体に貼り付いていたものと考えられる。	
2103	不明	残 破片 高 < 5.1)	①出土地不明	① A ②ふい赤 褐5YR5/4③普 通・普通	ひょうたん状を呈し本体に付属するものである。先端部分はヘラによる切り込みがなされ、下段には粘土粒を2列貼り付けている。鈿を表現していると考えられる。上段は中実、下段は中空の成形である。	PL150
2104	不明	残 破片 高 < 3.3)	①出土地不明	① B ②橙5 YR 6/8③普通・普通	棒状の本体に薄い粘土板を重ね、周縁に刺突を運んでいる。	
2105	不明	残 破片 高 < 7.1)	①出土地不明	① A ②明赤褐2. 5 YR5/6③普 通・普通	径22.0cmの円筒形を呈しているか。約3.0cmの間隔を置いて断面三角形の低い突帯がみられる。外面は丁寧にナゲている。	
2106	不明	残 破片 高 < 6.5)	①出土地不明	① B ②橙5 YR 6/8③普通・普通	板状の破片、本体に付属していたと考えられる。縁部近くの幅3.3cmは表面側が肥厚している。肥厚部分にはヘラ描き沈線による山形文が配される。また、割れ口の一端寄りには裏面にわたり布目瓦痕が残る。成形時のひび割れを補修したものか。	

小像 (第321図)

No	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特 徴	備 考
2107	土製品 (小像)	残 頭部～ 上半身 高 < 6.8)	①くびれ部 東側②墓4 中段下段	① A ②橙5 YR 6/8③普通・普通	本文中参照。	PL131

土 器

須恵器(1) (第323図)

No	器種	量 目	出土位置	① 動土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	写 真	備 考
2108	須恵器 杯蓋	残 破片 口 (17.4) 高 < 3.8	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①粗砂少量②灰 黄2.5Y7/2③還元、やや軟質	口縁部はナナメ外方に延びる。先端は薄く尖る。 右回転クロコ成形と考えられる。底部外面には回転を伴うヘラケズリが施される。	PL151	
2109	須恵器 杯蓋	残 破片 口 (16.4) 高 < 4.1	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①比較的精選白 色鉱物粒少量② 灰7.5Y5/1③還元	右回転クロコ成形と考えられる。口縁部はナナメ 外方に伸びる。先端は外方につままれたように尖 る。	PL151	外面に自然輪が かかる。
2110	須恵器 杯蓋	残 破片 口 (14.0) 高 < 3.5	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①白色鉱物粒② 灰黄2.5Y6/2③ 還元	口縁部はナナメ外方に延びる。先端は薄く尖る。 右回転クロコ成形と考えられる。	PL151	
2111	須恵器 杯蓋	残 破片 口 (15.1) 高 < 3.5	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①白色鉱物粒② 灰7.5Y5/1③還元	口縁部はナナメ外方に延び、先端は尖る。天井部 への変換点には沈線に伴う弱い稜ができる。		
2112	須恵器 杯蓋	残 破片 口 (15.0) 高 < 3.8	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①黒色鉱物粒② 灰黄2.5Y6/2③ 還元	口縁部はナナメ外方に延び先端は尖る。右回転ク ロコ成形と考えられる。	PL151	
2113	須恵器 杯身	残 破片 口 (14.3) 高 < 3.5	①後門部墳 頂部～上段 ②後門S T	①チャート、白 色鉱物粒②灰黄 2.5Y6/2③還元	口縁部は弱く内傾して立ち上がる。受け部は水平 方向に弱く突出する。右回転クロコ成形。底部に は一部回転を伴うヘラケズリが施される。		
2114	須恵器 杯ある いは高 杯の身	残 破片 口 (14.0) 高 < 3.3	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①白色、黒色鉱 物粒②灰5Y6/1 ③還元、やや甘 い。	口縁部は弱く内傾して立ち上がり先端が尖る。受 け部は水平方向に突出する。右回転クロコ成形。 底部外面に回転を伴うヘラケズリを施す。		
2115	須恵器 杯蓋?	残 天井部 高 < 1.8	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①白色鉱物粒を 多量に含入②灰 10Y4/1・黄灰2.5 Y5/1③還元、軟 質	右回転クロコ成形。天井部は回転を伴うヘラケズ リを施す。		
2116	須恵器 高杯?	残 杯部破 片 高 < 4.0	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①白色鉱物粒② 灰 N5③還元	受け部はココ方向に弱く張り出す。杯底部は丸み を有する。右回転クロコ成形。杯部外面は回転ヘ ラケズリ後ナメ調整を施しているか。		
2117	須恵器 杯身	残 破片 高 < 3.7	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①白色、黒色鉱 物 粒 ② 灰 白 5 Y7/1③還元	口縁部は弱く内傾して立ち上がる。受け部は水平 方向に突出する。右回転クロコ成形である。		
2118	須恵器 高杯	残 口縁部 破片 高 < 3.7	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①精選、白色鉱 物粒少量②灰 N5/1 ③還元	外面の途中に稜をなす。この下位にはナナメココ 方向のクシメ(ハケム)状の文様が施される。右回 転クロコ成形。	PL151	
2119	須恵器 高杯	残 破片 高 < 2.7	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①精選、白色鉱 物粒少量②灰 N5/1③還元、良 好	口縁部と底部の境界には短い明瞭な稜がめぐつ ている。蓋の可能性もある。	PL151	外面に自然輪が かかる。
2120	須恵器 高杯	残 口縁部 破片 口 (10.0) 高 < 2.8	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①精選、白色鉱 物粒少量②灰5 Y4/1・灰 N5/1 ③還元	わずかに外反して立ち上がる。鋭い稜をなして底 部へ移行する。径は小さすぎるか。	PL151	自然輪がかか る。
2121	須恵器 高杯	残 口縁部 破片 高 < 4.3	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S、石室上 部	①精選、白色鉱 物粒少量②暗緑 灰7.5GY4/1・ 灰5Y6/1③還元、良好	ナナメ上方に立ち上がる。中位には2段稜をなし、 その間にナナメココ方向のクシメ状の文様が施さ れる。		

No	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③構成	特 徴	写真	備考
2122	須志器 高杯	残 杯下部 ～脚上部 高 <11.0>	①後門部墳 頂部～上段 ②1トレ2 F-20G、 後門部換門 北	①白色鉱物粒② 灰白7.5Y7/1③ 還元、良好	脚部は長脚で中に2条の沈線を配し上下を区切る。通しは狭小な長方形を呈し、上下2段、3方に穿つ。杯部は右回転ロクロ成形、底部外面の割れ口から脚部との接合痕が観察できる。脚部内面にしぼり痕がみられる。	PL151	
2123	須志器 高杯	残 脚部上 半2/3 高 <10.8>	①後門部墳 頂部～上段 ②1トレ2 E-20G	①灰白色、黒色 鉱物粒②灰7.5Y 6/1・灰10Y5/1 ③還元	通しは長脚2段で三方に配す。上下の通しの間は2条の沈線で隔する。杯部は右回転ロクロ成形。脚部は外面にロクロ痕、内面にしぼり痕が残る。	PL151	自然釉がかか る。
2124	須志器 高杯	残 脚上半 部2/3 高 <9.6>	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①黒色鉱物粒② 灰白5Y7/2③還 元	長脚をなす脚部の上半部分である。通しを3方に配し、下位の通しとの間を1条の沈線により区画している。外面はロクロ目、内面にはしぼり痕がみられる。	PL151	
2125	須志器 高杯	残 脚上半 部破片 高 <4.6>	①後門部墳 頂部～上段 ②1トレ2 F-20G	①黒色鉱物粒② 灰白2.5Y8/2③ 還元	脚部は長脚で通しを3方に2段配するものと思われる。外面にはロクロ痕、内面にはしぼり痕を残す。		
2126	須志器 高杯	残 脚部下 半破片 高 <4.5>	①後門部南 側(後方)② 10トレ3区	①黒色鉱物粒② 灰 N4/1③還 元、焼締め、や や軟質	長脚2段で通しは三方に配されている。残存部上端に沈線がめぐる。外面ロクロ痕、内面ロクロ痕としぼり痕がみられる。		自然釉がかか る。
2127	須志器 高杯	残 脚部下 半1/3 高 <13.9>	①明輪②20 トレ2N- 26G(注記 誤りか)	①白色鉱物粒② 灰 N5/1③還元	裾部に向けて外反、端部は外面に稜をなす。通しは三方に配されると考えられる。外面にはカキメを、内面にはロクロ痕を残す。	PL151	
2128	須志器 高杯	残 脚部下 半破片 高 (14.0) 高 <9.1>	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①精造、黒色鉱 物粒少量②灰 N5/1・灰黄2.5 Y7/2③還元、焼 締め	ロクロ成形で端部は大きく外反して裾部を形成する。通しは2段で三方に配される。中に1条、下位に2条の沈線がめぐる。	PL151	外面に自然釉が 及ぶ。
2129	須志器 高杯	残 脚部下 半1/3 高 (15.0) 高 <7.7>	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上 部・石室上 部S	①白色・黒色鉱 物粒②灰10Y 5/1・灰 N4/③ 還元	裾部は大きく外反して延びる。端部は折れ、垂直面をなす。通しは3方に配されている。通しの下端には沈線が1条めぐる。	PL151	外面に自然釉が かかる。
2130	須志器 高杯	残 脚部下 半1/3 高 (14.0) 高 <6.2>	①後門部墳 頂部～上段 ②17トレ1 区	①白色鉱物粒② 灰10Y6/1③還 元	下位に向けて大きく外反する。下端は外面に稜をなし、垂直面をもつ。端部は先端が尖る。通しは3方に配される。内外面にロクロ痕を残し、通しの下段に強い沈線が1条めぐる。	PL151	
2131	須志器 高杯	残 脚下半 部破片 高 <5.5>	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①精選暗青灰 10B G4/1③還 元	通しは3方に配され、切り込みの下端に2条の沈線がめぐる。内面にはロクロ目を良く残す。		内面に自然釉が かかる。
2132	須志器 高杯	残 脚部破 片 高 <6.5>	①後門部墳 頂部～上段 ②後門部上 段	①黒色・白色鉱 物粒②灰白2.5 Y7/1③還元、や や軟質	通しは3方に配されている。内外面ともロクロ痕が残る。通しの下端に弱い沈線がめぐる。		
2133	須志器 高杯	残 脚部下 半破片 高 <2.1>	①輪部墳頂 部②1トレ 2A-20G	①黒色鉱物粒② 灰白2.5Y8/2③ 還元、やや軟質	脚部下端は、外面に稜をもち、垂直に下がる。長方形と思われる通しの一部が残存する。内外面ともロクロ痕を残す。		
2134	須志器 高杯	残 脚部破 片 高 <1.2>	①後門部墳 頂部～上段 ②17トレ	①黒色、白色鉱 物粒②灰10Y 6/1③還元	大きく外反した裾部は外面に稜をなす。断面の先端は尖る。		
2135	須志器 高杯	残 脚部破 片 高 <3.2>	①後門部南 側(後方)② 10トレ4区	①黒色鉱物粒を 含む②灰白5Y 7/2③還元	下位に向けて大きく外反、裾部は外面に稜をなし垂直面をなす。断面は尖る。通しの一部が残存する。内外面ともロクロ痕がみられる。		

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	写 真	備 考
2136	須恵器 壺	残 口縁部 破片 高 < 3.8)	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上段 S	①白色灰物粒少 量②灰 N5/1③ 還元、やや軟質	口縁部は頸部との境界に弱い稜をなした後ナメ 上方に開く。口縁部外面にはへら掘き斜行直線文 が施される。	PL151	
2137	須恵器 壺	残 口縁部 破片 高 < 3.5)	①後門部墳 頂部～上段 ②後門上段	①精選②褐灰10 YR4/1③還元、 焼締め	口縁部と頸部の境界には明瞭な稜がめぐる。頸部 外面には縦方向に直線文が施される。	PL151	内外面に自然釉 付着。

須恵器(2) (第324図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	写 真	備 考
2138	須恵器 横瓶	残 1/2 口 (15.6) 胴 (31.2) 高 34.4	①後門部墳 頂部①1ト X-20Gと 2A-20G が接合	①白色・黒色灰 物粒②灰10Y 4/1③還元	口縁部は大きく外反して立ち上がり、端部は鋭く 内折して立ち上がる。胴部は紐作り成形により、 成形時の側面に口縁部を接合している。外面はカ キメが施文される。内面はアテメをきれいにナゲ 削している。	PL152	外面に自然釉が 及ぶ。
2139	須恵器 横瓶	残 1/2～ 2/3 胴長 32.5 高 < 25.0)	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上 部・石室上 部S	①石英をはじめ とした白色灰物 粒②暗灰 N3/1 ③還元、焼締め	胴部は径に比して横幅を有する形状である。口縁 部は欠損する。粘土紐の巻き上げによる成形。外 面は平行タキメの後、間隔をあけて1単位約9 本のカキメを施す。内面には背海波文状のアテメ が強く残る。	PL152	断面サンドイッ チ状に茶褐色部 分あり。
2140	須恵器 横瓶ま たは提 瓶	残 口縁部 破片 口 (12.0) 高 < 5.7)	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①粗砂大の白色 灰物粒②灰10 Y4/1③還元	ラッパ状に大きく外反する。先端は外面に面をな し、その中心は沈線状にくぼく。外面には12本1 単位と思われる波状文が2段重なっている。		
2141	須恵器 横瓶	残 口縁部 破片 口 (14.2) 高 < 3.1)	①後門部墳 頂部①1ト 2A-20G	①白色・黒色灰 物粒②灰5Y4/1 ・にょい黄2.5 Y6/4③還元、焼 締め	口縁部の先端は外面に弱い稜をなして尖る。内面 も外形にあわせ、やや受け口状を呈する。		内面に自然釉が かかる。
2142	須恵器 横瓶ま たは提 瓶	残 口縁部 破片 高 < 5.1)	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S	①粗砂大の白色 灰物粒②暗緑灰 10G Y4/1③還 元	外反して立ち上がり先端を欠く。外面には波状文 が施される。		
2143	須恵器 長頸瓶	残 胴部破 片 高 < 4.3)	①前方面東 北隅②墓3 2ピット	①黒色灰物粒② 灰 N6/③還元	胴部上位の破片と考えられ、沈線が1条めぐって いる。右回転クロコ成形である。	PL151	

須恵器(3) (第325図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	写 真	備 考
2144	須恵器 横瓶	残 口縁部 欠損 胴長径 37.9 胴短径 30.8 高 < 32.4)	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S・後門上 段	①白色灰物粒を 多く含む②暗青 灰10B G3/1③ 還元	粘土紐の巻き上げにより、やや横幅のつまった胴 部を成形、小口に粘土板を貼付し閉塞する。胴部 のほぼ中央に口縁部を接合する。外面にはカキメ が施される。内面にはクロコ使用のナゲが施され、 背海波文状のアテメが弱く残る。	PL152	器面に自然釉が および。
2145	須恵器 提瓶	残 胴部下 半を中心に 1/2 短径(12.2) 高 < 19.3)	①後門部墳 頂部～上段 ②石室上部 S・石室上 部	①白色灰物粒を 含む②暗灰N3/1 ③還元、焼締め	口縁部、把手は残存しない。胴部は成形時の上側 が丸みを有する。外面は全面にわたり、10本1 単位とする施文によるカキメを施している。内面 にはナゲが施されている。	PL152	内外面に自然釉 および。

No	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特徴	写真	備考
2146	須恵器 大甕	残 口縁部 破片 口 (51.6) 高 (13.7)	①くびれ部 東側・後門 部西側②板 4中段・6 トレ3区	①白色鉱物粒② FKN5・灰黄2.5 Y6/2③還元	大きく外反して立ち上がる。先端は尖る。外面は沈線、および疑似突帯により区画された文様帯が3段認められ、内部には8本1単位の波状文を配している。	PL152	自然輪がかか る。

須恵器(4) (第326図)

No	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特徴	写真	備考
2147	須恵器 大甕	残 口縁部 破片 高 (11.5)	①後門部填 頂部～上段 ②17トレ1 区・後門S T	①あまり緻密で なくザラついて いる白色鉱物粒 ②暗灰 N3/1③ 還元	先端は内側に向けて強く立ち上がる。断面は尖り三角形をなす。2本1単位の沈線により区画された3段の文様帯には9本1単位と思われる波状文が配される。	PL153	
2148	須恵器 大甕	残 口縁部 破片 高 (6.3)	①くびれ部 東側②11ト レ2A-22 G	①白色鉱物粒② 暗灰 N3/1③還 元、良好	口縁部は外反して立ち上がる。外面には平行タタキメが残る。先端は内面がくぼみ断面三角形形状を呈する。外側には波状文がめぐり、沈線が下位を画している。	PL153	
2149	須恵器 大甕	残 口縁部 破片 高 (6.3)	①後門部西 側②19トレ 6区	①白色鉱物粒② 暗灰 N3/1③還 元、焼締め	先端は外方に面をなす。断面は三角形に尖る。外面には波状文を配す文様帯が2段認められる。	PL153	
2150	須恵器 大甕	残 口縁部 破片 高 (14.1)	①後門部西 側②C-1	①白色鉱物粒② 灰10Y5/1③還 元	口縁部は大きく外反して立ち上がり、外側に面をなす。ここに2条の沈線が施される。中位の弱い沈線は境に上半の区画内には波状文3段が施される。	PL153	
2151	須恵器 大甕	残 口縁部 破片 高 (7.6)	①後門部填 頂部～上段 ②B-V、 後門C-2	①白色鉱物粒② 暗青灰10BG4/1 ③還元	先端は外面がそがれ尖る。外面の文様帯は、上位2段が沈線を含んで、波状文を配している。3段、4段目は2条の沈線を持った疑似突帯により区画され波状文が施されている。	PL153	
2152	須恵器 大甕	残 口縁部 破片 高 (13.8)	①鞍部填頂 部②11トレ Z-18G・ 後門上段	①黒色・白色鉱 物粒、チャート ②灰オリーブ7.5 Y6/2・灰5Y4/1 ③還元、やや軟 質	先端は丸みを持って尖る。4条の沈線により区画される。先端直下の幅は狭いが他はほぼ等間隔である。文様は上位3段が1単位6～8本の波状文が配される。最下段はナゲ調整による無文である。	PL153	
2153	須恵器 大甕	残 口縁部 破片 高 (10.3)	①鞍部填頂 部・後門部 填頂部～上 段②後門上 段、鞍部頂 上	①白色鉱物粒② 灰褐7.5YR5/2・ 灰黄褐10YR5/2 ③還元、軟質	口縁部と胴部の接合に際し、外面に輪帯帯をめぐらしている。口縁部の外面には沈線による区画がなされ6条1単位の波状文が配されている。	PL153	焼きむら?
2154	須恵器 大甕	残 口縁部 破片 高 (7.4)	①くびれ部 西側②鞍部 W1	①白色鉱物粒② 暗青灰10BG4/1 ・灰10Y5/1③ 還元、焼締め	先端は断面三角形形状に尖り、外面の直下に沈線に伴う突帯を貼り付ける。外面は疑似突帯により区画される文様帯を2段残し、内部には9～11本1単位の波状文が配されている。	PL153	
2155	須恵器 大甕	残 口縁部 下半破片 高 (10.8)	①前方部填 頂部②1ト レX-20G	①白色鉱物粒② 暗灰 N3/1③還 元、焼締め	口縁部の中心～下半の破片で2本の疑似突帯と、その区画内に施された10本1単位の波状文2段がみられる。	PL153	内面に自然輪が かかる。
2156	須恵器 大甕	残 胴部上位 破片 高 (4.8)	①後門部填 頂部～上段 ②後門S T	①白色鉱物粒② 灰10Y5/1③還 元	外面には口縁部との接合のため輪帯帯がめぐらされている。調整は外面がタテ方向のタタキメ後これをナゲ消している。内面は頸部にナゲが認められる他はアタメが残る。	PL153	

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	写真	備考
2157	須恵器 大甕	残 口縁部 破片 高 (11.4)	①前方部西 側②前方 W-1, 前方 C-VI, D トレ	①白色紅物粒② 暗灰 N3/1③還元、焼締め	口縁部の中位から下位の破片である。疑似尖帯により区画された3段の文様帯が残存する。上位2段は内部に11・12本1単位の波状文を充填している。最下段の文様帯はタテ方向のハケム施文後に波状文を配し、下位をナゲ削している。	PL153	

須恵器(5) (第327図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	写真	備考
2158	須恵器 大甕	残 頸部1/ 4 高 (4.7)	①後門部西 側②6ト レ5区・後門 C-II	①白色紅物粒② 灰10Y5/1③還元、良好	口縁部は胴部の上端に粘土を接合し、くの字状に立ち上がったと考えられる。外面に補強帯を張り付ける。	PL153	
2159	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 (7.2)	①くびれ部 西側②缸1	①黒色・白色紅 物粒②灰白2.5 Y7/1③還元、軟 質	外面はタタキメ、内面はアテメを残す。		
2160	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 (7.3)	①前方部填 頂部②1ト レX-20G	①白色紅物粒② 暗青灰5BG4/1 ③還元	外面には同心円状のカキメを、内面には同心円状のアテメを残す。		
2161	須恵器 大甕	残 頸部破 片 高 (5.8)	①くびれ部 西側②WC -4皿B	①白色紅物粒② 緑灰7.5GY5/1 ③還元	口縁部は大きく外反して立ち上がる。胴部との接合部には外面に補強帯がめぐる。	PL153	
2162	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 (8.0)	①前方部東 北側②缸3	①白色紅物粒② 灰 N4/1③還元、焼 締め	外面はタテ方向のタタキが、内面にはアテメが認められる。		
2163	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 (7.0)	①くびれ部 西側②18ト レ4区	①白色紅物粒、 チャート②灰 N5/1③還元、焼 締め	外面はタテ方向のタタキメ。内面はアテメを残す。		
2164	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 (10.1)	①後門部填 頂部～上段 ②18トレ1 区	①白色紅物粒② 灰7.5Y5/1・灰 N5/1③還元	外面ナゲ調整。内面にアテメを残す。		
2165	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 (9.2)	①後門部東 側②2トレ 4区	①白色紅物粒② 灰7.5Y5/1③還元	外面、タタキメを弱く残す。内面には同心円状のアテメを残す。		天地不明。
2166	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 (15.4)	①前方部東 北側②缸3 前方C-IV	①白色紅物粒② 灰 N4/1③還元、焼 締め	外面はタテ方向のタタキが、内面にはアテメが認められる。		
2167	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 (14.8)	①前方部西 北側②缸2	①白色紅物粒② 暗青灰5B4/1③還元	外面はタテ方向のタタキメが、内面はアテメを残す。		
2168	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 (8.7)	①後門部西 側②19トレ 4区	①白色紅物粒② 灰7.5Y5/1③還元	外面はナゲ調整。内面にはアテメを残す。		
2169	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 (16.9)	①くびれ部 西側②缸1 前方W-IV、 WCT-VI、 14トレ、I -15G、16 トレ、5区	①黒色の発泡、 白色紅物粒②暗 灰 N3/1③還元	外面はタテ方向のタタキメを、内面はアテメを残す。	PL153	外面に自然物がかかる。

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	写 真	備 考
2170	須恵器 大壺	残 胴部破 片 高 <18.7>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円S T	①白色磁物粒② 灰N5/1③還元	外面のタタキメはその後の磨面調整により明瞭でない。内面には同心円状のアテメを残す。	PL153	
2171	須恵器 瓶	残 胴部破 片 高 <3.6>	①鞍部墳頂 部②1トレ 2A-20G	①白色磁物粒を 含む②暗オリーブ 灰2.5GY4/1 ③還元	器内は薄い。外面にカキメ、内面にアテメを残す。		
2172	須恵器 瓶	残 胴部破 片 高 <3.8>	①後円部墳 頂部～上段 ②1トレ2 B-20G	①白色磁物粒② 暗オリーブ灰2.5 GY4/1③還元、 良好	器内薄い。外面はタテ方向のハケメ、内面はアテメを残す。		外面に自然釉がかかる。

須恵器(6) (第328図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	写 真	備 考
2173	須恵器 大壺	残 胴部破 片 高 <16.8>	①くびれ部 西側・後円 部墳頂部 ～上段②B -5、C- 5	①白色磁物粒② 青灰5BG5/1③ 還元	外面平行タタキメ、残存部下位にヨコ方向のカキメを重ねる。内面にはアテメを残す。	PL153	
2174	須恵器 大壺	残 胴部破 片 高 <7.5>	①くびれ部 西側②1ト レZ-15G	①白色磁物粒② 灰10Y5/1③還 元	外面はナメタテ方向にタタキメを施した後、ヨコ方向に指ナゲを重ねている。内面にはアテメが残る。		
2175	須恵器 大壺	残 胴部破 片 高 <14.1>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円S T	①白色磁物粒② 青灰10BG5/1③ 還元、焼締め	外面平行タタキメ、内面にアテメを残す。		
2176	須恵器 大壺	残 胴部破 片 高 <7.3>	①くびれ部 西側②WC -4皿B	①白色磁物粒② 青灰5BG5/1③ 還元	外面ナメタテ方向のタタキメに一部、ヨコ方向の指ナゲが重なる。内面は同心円状のアテメを施す。		
2177	須恵器 大壺	残 胴部破 片 高 <11.5>	①くびれ部 西側②鞍部 -W-1	①白色・黒色磁 物粒②灰10Y6/1 ・暗青灰5B4/1 ③還元	外面は平行タタキメの一部にナゲを重ねている。		外面に自然釉がかかる。
2178	須恵器 大壺	残 胴部破 片 高 <16.9>	①後円部墳 頂部～上段 ②後円C- II・CT- II	①白色磁物粒② 青灰5BG5/1③ 還元	外面はタテ方向のタタキメ、内面はアテメを残す。	PL153	
2179	須恵器 大壺	残 胴部破 片 高 <19.2>	①後円部南 側(後方)・ 後円部西 側・後円部 墳頂部～上 段②後円C -II、2ト レ、2E- 14G、10ト レ内堀	①白色磁物粒② 青灰10BG5/1③ 還元	外面はタテ方向のタタキメ、内面はアテメが残る。	PL153	
2180	須恵器 大壺	残 胴部破 片 高 <13.5>	①後円部西 側②C-1	①白色磁物粒② 青灰5B5/1③還 元	外面平行タタキメ、残存部下位にヨコ方向のカキメが1段施される。内面はアテメが認められる。		

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	写真	備考
2181	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 <14.3	①くびれ部 西側・後門 部墳頂部～ 上段②後門 C-II、B -5、16ト レ4区	①白色紅物粒② 青灰5BG5/1③ 還元	外面はナナメタ方向のタタキメ後、ヨコ方向に 指ナデを施す。内面はアテメを施す。		
2182	須恵器 大甕	残 底部破 片 高 <5.1	①後門部墳 頂部～上段 ②後門C- N-1	①白色紅物粒② 青灰10BG5/1③ 還元	底部は丸底である。外面はナナメ方向にタタキメ が重なる。この上にカキメが重ねられている。内 面にはアテメが残る。	PL153	

須恵器(7) (第329図)

No.	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特徴	写真	備考
2183	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 <25.7	①前方部墳 頂部・後門 部墳頂部 ～上段②後 門S T、4 トレX-20 G	①白色紅物粒② 灰10Y5/1③還 元	外面は平行タタキメをナデている。内面には同心 円状のアテメがみられる。	PL153	
2184	須恵器 大甕	残 底部1/ 3 高 <8.1	①前方部西 側②前方C -VI、前方 W-I、前 方WC-VI	①黒色の発色、 白色紅物粒②暗 灰N3/③還元	外面には10本1単位のカキメが開闕をあけて施さ れる。内面にはアテメが残る。	PL153	
2185	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 <18.7	①前方部西 側②WC T -III	①黒色の発色、 白色紅物粒②灰 10Y5/1③還元	外面は平行タタキメを、内面は同心円状アテメを 残す。	PL153	
2186	須恵器 大甕	残 1/3 口 (24.6) 胴 (40.2) 高 <49.8	①くびれ部 西側・前方 部西側・前 方部西北隅 ・前方部墳 頂部・鞍部 墳頂部②1 トレ、X -14G・X -19G・X -20G・Y -21G・W -19G、3 トレ、18ト レ、笠1、 笠2、前方 CT	①石英をはじめ とした白色紅物 粒②暗灰N3/・ 灰黄褐10YR4/ 2③還元、やや軟 質	口縁部は大きく外反して立ち上がる。沈線と隆線 帯で4段に区画し、上位3段には幅1.8cm、1単位 1本の施文具による波状文が充填される。最下段 は上半に波状文、下半にタテ方向のハゲメが施さ れる。口縁部の先端は内折して鋭く尖る。口縁部 と胴部の節子後接合には外側に補強帯を貼り付け る。胴部は紐作り成形による複合板を良く残す。 外面はナナメ方向の平行タタキメが、内面には青濁 波状文のアテメを残す。底部近くにはカキメを残 す。	PL154	徳成が不十分、 断面サンディッ チ状を呈す。

須恵器(8) (第330図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	写 真	備 考
2187	須恵器 蓋	残 天井部 分 高 < 2.1)	①外縁②23 トレ3区	①黒色紅物粒② 灰7.5Y6/1③還元	天井部はあまり膨らみをもたず、扁平であったか。 つまみは割落しているがリング状を呈していた。 右回転ロクロ成形、天井部中央にヘラクズリを施す。	PL154	内面磨耗、二次 利用されたか。
2188	須恵器 杯	残 1/3 口 (13.8) 底 (8.8) 高 3.8	①外縁②23 トレ3区	①粗砂少量、 チャート、長石 ②灰白7.5Y7/1 ③還元	口縁部はナメ方向に直線的に立ち上がる。底部 は平底で口縁に比して低く大きい。右回転ロクロ 成形、底部は回転を伴う糸切り、ヘラ切り後口縁 部のみヘラ調整を施す。	PL154	
2189	須恵器 壺	残 胴部破 片 高 < 8.0)	①外縁②23 トレ3区	①夾雑物微量② 灰7.5Y5/1・灰 N5/1③還元	胴部上半の破片。肩部は丸く張り出す。外面はナ ゲ調整を施す。内面はアテメをナゲ消すがその痕 跡が残存する。	PL154	
2190	須恵器 蓋	残 つまみ 周辺 高 < 2.1)	①外縁②24 トレ	①チャート、白 色紅物粒②灰白 7.5Y7/1③還元	天井部はあまり膨らみを有さない。径5.8cmのリン グ状のつまみを付ける。右回転ロクロ成形である。	PL154	
2191	須恵器 長頸瓶	残 台部1/ 2 底 (13.0) 高 < 4.5)	①外縁②27 トレ	①黒色紅物粒を 含み、器面に発 泡、磨解する。 ②灰黄2.5Y6/2 ③還元	ロクロ成形。台部は低く、ハの字状を呈する。肩 部は上縁の縁が突出する。	PL154	焼き歪みが生じ ている。内外面 に自然釉が及 ぶ。
2192	須恵器 長頸瓶	残 頸部下 位 高 < 10.5)	①外縁②28 トレ溝内	①黒色・白色紅 物粒②灰白7.5 Y7/1③還元、や や軟質	残存部下端の直径は6.8cmを測る。粘土層を巻き上 げ後内外面をロクロにより再整形している。	PL154	
2193	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 < 13.8)	①外縁②23 トレ3区、 27トレ	①白色紅物粒② 灰白5Y8/2③還 元、軟質	外面、疑似格子目状のタタキを残す。内面にはア テメを残す。		
2194	須恵器 壺	残 口縁部 破片 高 < 5.6)	①外縁②23 トレ3区	①胎土細かい。 黒色紅物粒少量 ②灰 N5/・灰 10Y6/1③還元	外反して立ち上がる。内外面にロクロ痕がみられ る。		
2195	須恵器 大甕	残 口縁部 ～胴部破片 高 < 6.8)	①外縁②27 トレ	①一部黒色の発 砲。白色紅物粒 ②灰N6/1③還元	口縁部は直立ぎみに立ち上がり上方で外反すると 思われる。外面は口縁部の一部と胴部に疑似格子 目状のタタキを施す。胴部内面にはアテメを残 す。	PL154	
2196	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 < 8.0)	①外縁②27 トレ	①石英②灰N5/1 ③還元、焼締め	外面はタテ方向のタタキ。内面はアテメをナゲ 消している。		
2197	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 < 8.1)	①外縁②27 トレ	①白色・黒色紅 物粒②灰 N6/1 ③還元	外面は格子状のタタキを施す。内面には同心円 状のアテメを残す。	PL154	
2198	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 < 9.1)	①外縁②27 トレ	①白色・黒色紅 物粒②灰 10 Y 5/1③還元	外面は格子状のタタキを施す。内面には同心円 状のアテメを残す。	PL154	
2199	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 < 11.6)	①外縁②27 トレ	①石英・チャ ート②灰 N5/1③ 還元、焼締め	外面はタテ方向のタタキ。内面にはアテメを施 す。		
2200	須恵器 大甕	残 胴部破 片 高 < 11.2)	①外縁②28 トレ溝内	①白色紅物粒② 灰5Y6/1・灰 N6/1③還元	外面、格子目状のタタキ。内面、アテメを残す。	PL154	外面に自然釉が かかる。
2201	須恵器 大甕	残 胴部下 半1/4 高 < 13.3)	①外縁②28 トレ、前方 中央トレ	①夾雑物少ない。 黒色紅物粒②灰 5Y6/1・灰黄2.5 Y6/2③還元	外面のタタキ。内面のアテメ、ともにナゲ消さ れ、わずかにその痕跡を残す。	PL154	

須惠器(9) (第331図)

No	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特徴	写真	備考
2202	須惠器 大甕	残 口縁部 破片 高 (13.2)	①外堀②28 トレ溝内	①石英、長石② 灰 N4/1③還元、焼締め	頸部には補強帯をめぐらせる。外面は2条1単位の沈線により文様帯を区画する。最下段は幅広い無文帯で、その上位の区画内には波状文が施されている。	PL153	
2203	須惠器 大甕	残 胴部破 片 高 (3.7)	①外堀②28 トレ	①黒い発泡。白 色鉱物粒②67.5 Y6/1・灰 N5/1 ③還元	外面、格子目状のタタキメ、内面、アテメを施す。		
2204	須惠器 大甕	残 胴部破 片 高 (5.7)	①外堀②28 トレ溝内	①白色鉱物粒② 灰7.5Y6/1・灰 N5/1③還元	外面タテ方向のタタキメ、内面にはアテメを施す。		外面に自然釉がかかる。
2205	須惠器 大甕	残 胴部破 片 高 (6.5)	①外堀②28 トレ溝内	①白色鉱物粒② 灰 N4/1③還元	外面、タテ方向のタタキメ、内面、アテメを施す。		

土師器 (第331図)

No	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特徴	写真	備考
2206	土師器 杯	残 口縁部 破片2/3 口 13.4 高 4.7	①内堀外縁 ②31トレ2 N-26G	①粗砂②橙7.5 YR7/6③酸化	口縁部は大径で、底部との間に明瞭な段をなし直立ぎみに立ち上がる。先端はやや尖る。口縁部はヨコナダを施す。	PL155	外面は磨減が著しい。
2207	土師器 杯	残 完形 口 11.0 高 4.2	①前方部東 側②3トレ V-22G	①水浸し粘土？ 赤色粘土粒含入 ②橙2.5YR7/8 ③酸化	器形は歪みが著しい。口縁部は小径、底部との間に弱い段をなし、弱く外傾して立ち上がる。口縁部はヨコナダ、底部外面はヘラケズリを施す。	PL155	
2208	土師器 杯	残 口縁部 1/2 口 (12.0) 高 (3.1)	①内堀②3 トレV-26 堀底	①水浸し粘土② 橙2.5YR7/8③ 酸化	小径。口縁部と底部との境には弱い段をなす。口縁部はヨコナダを施す。	PL155	
2209	土師器 杯	残 破片 口 (12.4) 高 (2.5)	①前方部東 北側②前方 部東北堀1	①赤色土粒②橙 7.5YR7/6③酸 化	口縁部は直立ぎみに立ち上がる。底部との間に段をなす。口縁部はヨコナダを施す。		
2210	土師器 杯	残 破片 口 (12.2) 高 (2.7)	①出土地不 詳②3トレ 2区	①水浸し粘土、 赤色粘土粒②橙 5YR7/8③酸化	口縁部はナナメ上方に立ち上がり底部との境に段をなす。		器面は磨減する。
2211	土師器 杯	残 破片 口 (11.8) 高 (2.4)	①出土地不 詳②1トレ 区1	①粗砂、輝石② 橙5YR6/6③酸 化	口縁部は底部から彎曲して立ち上がり短い。口縁部はヨコナダ、底部外面はヘラケズリを施す。		
2212	土師器 杯	残 破片 口 (11.8) 高 (2.2)	①外堀②28 トレ	①粗砂②橙5YR 6/6③酸化	口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。口縁部にはヨコナダを施す。		
2213	土師器 杯	残 破片 口 (11.2) 高 (2.4)	①外堀②28 トレ	①粗砂②橙2.5 YR6/8③酸化	口縁部はナナメ上方に立ち上がる。底部は深みがない。口縁部はヨコナダ、底部外面はヘラケズリを施す。		
2214	土師器 杯	残 破片 口 (11.2) 高 (2.0)	①外堀②28 トレ	①粗砂②橙5YR 6/6③酸化	口縁部はナナメ上方に立ち上がる。口縁部はヨコナダ、底部はナダ後下半部のみヘラケズリを施す。		

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	写 真	備 考
2215	土師器 罍	残 口縁 ～底部破片 口 (23.6) 高 (35.4)	①外縁②27 トレ	①舞石あるいは 角閃石と考えら れる黒色鉱物粒 ②にぶい橙7.5 YR6/4・暗灰 N3/1③酸化	口縁部は屈曲強く立ち上がり、先端が鋭く反する。 胴部は丸みを有し尖底の底部に続くと考えら れる。器内は全体に薄い。口縁部はヨコナデ、胴 部外面はナメヨコ方向にヘラケズリを施す。	PL155	
2216	土師器 杯	残 底部1/ 3 口 (14.0) 高 3.8	①外縁②28 トレ	①粗砂、舞石② にぶい橙5 YR 6/4・橙2.5 YR 6/6③酸化	口縁部はわずかにナメ上方に立ち上がる。底部 は浅い。口縁部はヨコナデ。底部外面は不定方向 にヘラケズリを施す。	PL155	
2217	土師器 杯	残 1/4 口 (20.2) 高 (6.1)	①外縁②28 トレ	①細砂②橙5YR 6/6③酸化	底部は丸く深みを有する。口縁部は短く、底部か ら内彎ぎみに立ち上がる。口縁部ヨコナデ、底部 外面はヘラケズリを施す。	PL155	

墓址 3 出土遺物 (第332図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	写 真	備 考
2218	須恵器 高台付 椀	残 高台割 落 口 13.7 高 (4.7)	①外縁②25 トレ1土坑	①結晶片岩、石 英多量②褐灰7. 5YR6/1・一部 橙7.5YR6/6③ 還元、軟質	口縁部はナメ上方に向けて立ち上がる。右回転 ロクロ成形。底部余切り離し後高台を取り付け周 辺にヨコナデを施す。	PL155	器面は著しく磨 減している。

平安時代以降の土器 (第334図)

No	器種	量目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	写 真	備 考
2234	須恵器 蓋	残 1/4 口 (14.4) 高 3.3	①くびれ部 西側②C- 5	①白色・黒色鉱 物粒少量含入② 灰10Y6/1③還 元	つまみは径4.0cmのリング状を呈する。天井部は張 りのない扁平な形状である。端部は下方におずか に折れる。右回転ロクロ成形。天井部のつまみ寄 りの一部に回転を伴うヘラケズリが施される。	PL155	
2235	須恵器 蓋	残 天井部 1/4 高 (2.3)	①後門部墳 頂部～上段 ②後門C- 1	①白色鉱物粒② 黄灰2.5Y5/1③ 還元	右回転ロクロ成形。天井部外面は丁寧にナデられ る。つまみはリング状を呈し、径4.0cmが想定され る。	PL155	
2236	須恵器 杯	残 破片 高 (1.9)	①外縁②缸 5	①精選、白色鉱 物粒②灰白5Y 7/2③還元、焼 締め	口縁部は平底の底部からナメ上方に向けて立ち 上がる。右回転ロクロ成形と考えられる。		
2237	須恵器 杯	残 口縁部 破片 高 (3.7)	①外縁②缸 5	①精選、夾雑物 微量②灰5Y5/1 ③還元	右回転ロクロ成形か。		
2238	須恵器 杯	残 破片 高 (3.8)	①くびれ部 東側②缸4 裾部	①精選、白色鉱 物粒②黄灰2.5 Y6/1③還元	口縁部はナメ上方に立ち上がり先端はやや尖 る。ロクロ成形。		
2239	須恵器 高台付 椀	残 底部1/2 高 (3.2)	①くびれ部 東側②缸4 周縁	①長石②灰白N 7/3③還元、軟質	底部には断面台形の低い高台を貼り付ける。右回 転ロクロ成形。底部余切り離し後高台を取り付け。	PL155	
2240	須恵器 高台付 椀	残 口縁部 破片 底(7.0) 高 (1.7)	①出土地不 詳②1トレ	①チャート、雲 母②灰質2.5Y 7/2・灰 N4/1③ 還元、軟質	右回転ロクロ成形。底部余切り離し後高台を貼り 付ける。	PL155	内面に黒斑状を 呈する部分あり。

No	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特徴	写真	備考
2241	須恵器 高台付 椀	残 底部 底 6.6 高 < 1.7)	①外縁②24 トレ	①粗砂、片岩あり。 ②灰白7.5 Y7/1③還元、軟質	底部には低い高台が付く。ロクロ成形。	PL155	器面の磨削顯著。
2242	須恵器 高台付 椀?	残 破片 高 < 1.9)	①後内面南 側(後方)② 1トレ2 J -20G	①白色紅物粒② 灰5Y5/1③還元、軟質	口縁部下半の破片である。底部には回転糸切り後高台を貼り付ける。		
2243	須恵器 杯	残 下半1/3 底 (8.0) 高 < 1.1)	①後内面頂 部～上段 ②1トレ2 G-20G	①赤色粘土粒② により焼5YR 6/4③酸化	口縁部はナメ上方に立ち上がる。底部回転糸切り後無調整。		
2244	須恵器 杯	残 底部破 片 高 < 0.7)	①外縁②5	①白色紅物粒② 黄灰2.5Y6/1③還元	ロクロ成形、底部回転糸切り後無調整。		
2245	須恵器 短頸壺	残 口縁部 欠損、胴部 3/4 胴 23.8 底 15.7 高 < 25.0)	①くびれ部 東側・外縁 北西隅②底 4、6号植 輪、底5	①粗砂、石英、 黒色紅物粒②灰 10Y6/1③還元	胴部は上位に最大径を有する。口縁部はくの字状に屈曲して立ち上がるが先端は欠損する。平底。成形は紐作りと考えられ、これにロクロ使用の再整形を行っている。	PL155	下半部を中心に器面の割離が顕著である。

軟質土器・陶磁器 (第335図)

No	器種	量目	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	特徴	写真	備考
2246	軟質陶器	残 破片	①外縁②5	①白色紅物粒② 灰5Y4/1③還元	内耳鍋の胴部下半と考えられる。ややナメ上方に立ち上がる。内外面ともナダを施す。	PL156	
2247	軟質陶器	残 破片	①前方部西 北隅②14ト レT-14G	①白色紅物粒② 灰黄褐10YR5/2 ③還元	内耳鍋の口縁から頸部の破片と考えられる。頸部はくびれ、口縁部は反折して立ち上がる。内外面ともナダを施す。	PL156	
2248	軟質陶器	残 底部破 片	①外縁②11 トレ2 A- 5 G	①白色紅物粒② 褐灰10YR4/1 ③還元	内耳鍋の底部破片と考えられる。底部は丸底を呈するか。	PL156	
2249	軟質陶器	残 底部破 片	①出土地不明	①粗砂②明褐色 YR5/6③還元	内耳鍋の破片。器高は浅く盤形を呈する。底部は平底である。	PL156	
2250	かわらけ 皿	残 口縁部 の一部が欠 損する。 口 10.4 底 4.9 高 3.0	①後内面西 側②C-2 ・H-3	①粗砂、輝石② 褐5YR6/6③酸化	口縁部はナメ上方に立ち上がる。成形は右回転ロクロ成形、底部は回転糸切り後無調整である。	PL156	内面には炭化物が付着。灯明皿として使用されたと考えられる。
2251	かわらけ 皿	残 1/3 口 (12.6) 底 (8.0) 高 3.0	①出土地不明	①黒色紅物粒② 褐5YR6/6③酸化	口縁部は深く、ナメ上方に立ち上がる。先端は外側が肥厚する。ロクロ成形、底部は回転糸切り後無調整である。	PL156	
2252	かわらけ 皿	残 底部1/ 3 底 (7.0) 高 < 2.6)	①後内面頂 部～上段 ②後内面C- 1	①黄褐色② 褐7.5YR6/4③酸化	口縁部は平底の底部からナメ上方に向けて立ち上がったか。底部は回転糸切り後無調整である。	PL156	
2253	かわらけ 皿	残 口縁部 1/3 口 (10.8) 高 < 2.9)	①後内面西 側②6トレ	①粗砂② 黄 10YR7/3 ③酸化	小皿。口縁部はナメ上方に立ち上がる。右回転ロクロ成形。	PL156	中世面から出土。

No	器種	量 目	出土位置	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	特 徴	写 真	備 考
2254	かわらけ皿	残 破片 口 (9.3) 高 < 2.4	①後門部南側(後方)②10トレ	①粗砂少量混入 ②にぶい赤褐色10 YR6/3③還元	小径の皿状を呈すると思われる。	PL156	内外面に炭化物付着。
2255	かわらけ皿	残 底部破片 高 < 1.8	①くびれ部東側②17トレ	①礫石、雲母②橙7.5 YR6/6③酸化	底部は回転糸切り磨し後無調整である。		
2256	青磁碗	残 口縁部破片 高 < 3.0	①外縁②25トレJ-15 G	①精選②にぶい黄2.5 Y6/3③還元	龍泉窯系。口縁部はナナメ上方に立ち上がり、外面の先端がごくわずかに膨れる。外面にはタテ方向のクシメが施されるが、運弁の削り出しは判然としない。軸に貫入が認められる。	PL156	
2257	常滑壺	残 胴部破片 高 < 3.7	①後門部南側(後方)②1トレ2 H-20 G	①白色鉱物粒②暗オリーブ5Y4/3③還元、良好	外面に残る調整痕はタタキメか、内面にはナデ調整が施される。	PL156	
2258	常滑壺	残 胴部破片 高 < 4.6	①後門部南側(後方)②20トレ9区	①細砂大の白色鉱物粒を含む。②灰 褐5YR4/2③還元	内外面ともナデ調整を施す。	PL156	
2259	常滑大甕	残 胴部破片 高 < 6.0	①外縁②27トレ	①粗砂大の白色鉱物粒②にぶい褐7.5 YR5/4③還元	器内は1.4~1.8cmとやや厚みを有する。内外面ともナデが施される。	PL156	内面に自然輪がかかる。
2260	常滑壺	残 破片	①後門部南側(後方)②1トレ2 N-20 G	①白色・黒色鉱物粒②にぶい褐7.5 YR6/3③還元	胴部の小破片である。器内は6mmと薄いが外面はタテ方向にナデを施す。	PL156	
2261	常滑大甕	残 胴部破片 高 < 8.6	①外縁②2トレ2 E-7 G	①粗砂大の鉱物を含む。②にぶい赤褐2.5 YR5/4③還元	外面はタタキメ、器内は1.0~1.3cmである。ナデ調整を重ねている。内面は粘土紐の接合痕をナデ削している。	PL156	
2262	常滑大甕	残 胴部破片 高 < 7.4	①後門部東側②22トレ	①白色鉱物粒②にぶい赤褐2.5 YR5/4③還元	外面はハケメに粗いナデを施す。内面はココナデを施す。	PL156	
2263	常滑大甕	残 胴部破片 高 < 10.5	①くびれ部東側②17トレ4区	①白色鉱物粒を多量に含む。②にぶい赤褐2.5 YR5/4③還元	外面はナナメタテ方向のタタキメにナデ調整を重ねている。内面はナナメココ方向にナデている。	PL156	
2264	常滑大甕	残 胴部破片 高 < 11.6	①前方部西北側②12区周部内	①細砂状の白色鉱物粒②にぶい赤褐2.5 YR5/3③還元	外面はナナメタテ方向のハケメにナデを重ねる。内面はココ方向にナデを施す。	PL156	
2265	常滑大甕	残 胴部破片 高 < 12.7	①後門部東側②22トレ3区	①粗砂大の鉱物粒②にぶい赤褐2.5 YR5/4③還元	外面はタテ方向に粗雑なハケメを、内面はココ方向にナデを施す。	PL156	
2266	常滑大甕	残 底部破片 高 < 6.0	①外縁②15外側内	①細砂大の白色鉱物粒②にぶい褐7.5 YR5/3③還元	底部は平底である。内外面ともナデ調整を施す。	PL156	内面に自然輪がかかる。

石造物 (第336図)

No	図種	量 目	出土位置	石 材	特 徴	写 真	備 考
2267	板碑	残 一部欠損 高 (50.1) 幅 17.5 厚 3.1	①後門部南側(後方)② 1トレ2H -20G	緑泥片岩	表面に向かって右上位から側部が欠損する。表面は全体に風化が進み、種子は不鮮明になっている。裏面の上位に2箇所、平ノミ状工具痕が認められる。	PL157	
2268	板碑	残 一部欠損 高 (48.4) 幅 16.1 厚 2.0	①出土地不明	緑泥片岩	下部側縁の一部が欠損する。頂部は山形を呈する。種子は一尊と考えられ蓮台に乗る。キリークか。	PL157	
2269	板碑	残 基部欠損 高 (61.2) 幅 24.5 厚 1.5	①出土地不明	緑泥片岩	頂部は山形を呈する。横幅は下位に移行するに従いやや大きくなる。種子は一尊で蓮台に乗る。キリークか。	PL157	
2270	板碑	残 上部破片 高 (30.7) 幅 22.8 厚 2.7	①後門部墳頂部～上段 ②石室上部	緑泥片岩	頂部の山形先端は成形が粗雑で左右縁対称の形状をなさない。表面は風化が著しく種子は不鮮明である。裏面に幅1.5cm程の平ノミ状工具痕が横方向に残存する。	PL157	
2271	板碑	残 中位破片 高 (32.0) 幅 20.3 厚 2.9	①後門部墳頂部～上段②1トレ2F-20G	緑泥片岩	裏面は剥離が進行している。	PL157	
2272	石造物 石碑の 台座	高 12.5～ 14.5 横幅 34.5 奥 31.4	①出土地不明	安山岩	石造物の台座と考えられる。側面正面は蓮弁が5葉刻まれている。裏面には粗雑な平面加工痕がみられる。上面は平坦で中央に長14.2cm、幅2.0cmの浅いへこみが残されている。	PL157	
2273	五輪塔	高 (24.0) 最大幅 14.7 奥 14.5	①出土地不明	角閃石安山岩	空風輪である。空輪は風輪に比して大きく、先端が突出する砲弾形を呈する。両者の間には垂直に立ち上がるくびれ部が形成されている。最大幅を1とした場合の高さの割合は1:1.6である。	PL157	

群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告書第242巻

綿貫観音山古墳Ⅰ
—墳丘・埴輪編—



〈遺物観察表編〉

平成10年3月20日 印刷
平成10年3月25日 発行

編集・発行／群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-0061 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社